

# 2019年新春講演会

## 松本 上長三 俊介 の画業をふり返って

坂上義太郎氏 元伊丹市立美術館館長  
現・BBプラザ美術館顧問



2019年2月  
第28号

関西美術家平和会議  
広報部発行  
■事務局/〒530-0054  
大阪市北区南森町2-2-14  
TEL 080-8516-7205  
FAX 06-6311-1238

1月26日(土) 関西美術家平和会議主催の新春講演会が大阪府護士会館レストランENで開催されました。松本俊介や井上長三郎の絵画の思いと作風そして社会に目を向けて独自の表現に挑んできた作品を年代順に追いつつ、「人間の回復」をテーマにした仕事に取り組んでおられる演者の思いも交えて講演されました。講演会には35名、懇親会には27名の参加がありました。

(講演内容の一部を広報部でまとめました)

### 松本俊介

天に続く道

佐藤俊介

絵筆をかついで  
とほとほと

荒野の中をさまよへば  
初めて知った野中に  
天に続いた道がある  
自分の心に独りごと  
いひながら

私は天に続いた道を行く

『右手日報』

1928/12/17 (16歳)

坂上氏からの配布資料冒頭にこの詩と俊介の自画像がありました。中学生で聴覚を失っている憂いを漂わせながらも、エスルギッシュ

で柔和な心の持ち主だという印象を受けました。

俊介は禎子夫人とともに自宅アトリエを総合工房と名付け、随筆「エッセイ」雑誌『雑記帳』を刊行した。「エッセイ」するとは、正しさというよりは偽りのないものを見出すという意味の願望が『雑記帳』の持っている精神である。各巻に多くの文士や画家たちの協力によって得られた寄稿や挿絵が多数掲載されている。それらは一派に偏ることのない広がりを考え、ゆくゆくは大人の絵本にまで飛躍することを願っていた雑誌だが、売れ行き不振、紙代

高騰といった悪条件に阻まれて2年満了で休刊に至った。

1948年36歳の若さで自宅アトリエで病没。彫刻家の舟越保武が彼を悼んで「何ということだ！美にっいては何でも話し合える得難い友、水晶のような男だった。心ある画家、文芸家に愛された画家、あの橋をまた描いてくれ」と詩を詠んだ。

講演の中で紹介された作品は「黒い花」「自画像」「画家の像」「人」「顔」「手と足」「立てる像」「建物」「航空兵群」「子ども」「Y市の橋」「象」等々です。



1月26日講演中の坂上氏

### 井上長三郎

休憩をはさんでスライドを見ながら井上長三郎について話されました。

1906年神戸生まれ。2歳頃両親と共に大連に渡る。彼の精神的風土は大連で育まれ、16歳の頃有島生馬「回想のセザンヌ」画集により啓発された。

「漂流」(1941)48年)七人の日本兵が大海原で生死をさまよった漂流した史実をもとに描いた作品は、何度も手を入れ続けた。

「静物と人」「葬送曲」国會シリーズ「議長席」「順番」「ベトナム」「広州事件」「トン・キホーテ」等々、反骨と社会問題を鋭く突いた諷刺画や奔放な線描による人物画が知られ、その作風はセザンヌやドーミエに影響を受けた。線の動き、デッサン力の啓蒙者であり、「デッサンは色を使わない絵画だ」とは彼の遺した言葉であり、最後まで自由美術存続に骨身を削ってきた。

透徹した目で社会や人間を見つめた画家井上長三郎は妻の待つ彼岸に絵筆を携え旅立った。享年89歳。

### △坂上先生お勧めの本

『求道の画家松本俊介』 宇佐美承著 中央公論社  
『青い絵具の匂い』 松本俊介と私 中野淳著 中公文庫  
『池袋モンパルナス』 宇佐美承著 集英社  
『わが愛する夭折の画家』 窪島誠一郎著 講談社  
『松本俊介とその友人たち』 伊丹市立美術館

### 参加者の声 抜粋

☆坂上さんの話は平易でわかりやすかった。俊介と井上の組み合わせも面白かった(堺市男) ☆松本俊介のことが知りたく風邪を押して参加。今の時代、恐ろしさを日常感じていますが、あの時代に於いても制作しながら抗った画家達に何か力を頂きました(芦屋市女) ☆先生の誠実な人柄と平易な言葉でとてもわかり易く来て良かった。実物の絵を見た(和泉市女) ☆毎回講演会が楽しみです。関東方面へ行く予定。群馬の個展に行きたい(池田市女) ☆とても良かった。生き方絵に対する情熱詳しく知りたい(堺市女) ☆お薦め本を図書館で探す(大阪市女)

# 平美の歴史①

### 発足した頃の思い出

山岸 稔

平美展は1953年に第1回が開催されたのですが私の初出品は1962年第11回展で22歳の学生でした。当時は地下展示室は無く、本館の1・2階の南側が公募展に当てられ、広々としていました。また現在の月曜日の入替日がなくて会期は7日でした。従って展示は閉館後の午後8〜9時まで、クーラーも無く過酷な作業でした。或る年のこと、展示の終了後、誰かが、リーダーの吉田さんにビールをかがんがごがあった。少し流つてはいたが「今年は出品料が増えたから、まあよいか、少しだけやで」と連れ立って飲みに行つたことがあった。新米の私には実情はよく分からなかったが、運営、財政も展覧会の期間だけの実行委員会、美術家の平和運動

としてもつと発展するためには恒常的な組織が必要であつたはず。

そこで「関西美術家平和会議」が1963年に設立され、日常活動の写生会も行われ、青年層が中心の「平美友の会」が発足（1965年）したりで、平和美術展が大众的な現在のよつな「かたち」に発展した

ように思っています。

平美新聞に携わつて

本松 進一

私が平和美術展に初めて出品したのは第12回展です。55年前になります。平美会議に参加したのも多分同じ頃ですから古い話です。事務局長を引き受けたのは30回展の時で当時の代

表は異人館の絵で有名な小松益喜さん、運営委員長は吉田利次さんでした。

不定期に発行されていた「平美ニュース」（平美新聞の前身）が定期的になつたのもこのころで、最初の頃は手書きのガリ版刷りでした。フープロが出始めてから活字になりましたが、編集はまだ切り張りでした。平美会議で発行する文書類の宛名は事務局全員が手で書いていました。

当時はまだ美術館の地下展示場はなく、平美展は地上の本館2階半分を使つていましたので、今より広く特別陳列として、ケーテコルビッツの版画、広島市民が描いた原爆の絵、戦没画学生の絵などを展示していました。

「平美ニュース」を受け継いだとき、通し番号はありませんでしたが、年に3回発行していましたが30年間で90号は発行したと思います。その後「平美新聞」に題字が変わりましたので、通し番号は若くなります。

昔から比べると出品者も鑑賞者も格段に増え、平和を願つ美術展として特別な

### 小さな美術館めぐり

#### ⑤ 小林美術館

万葉の時代から「高師の浜」と呼ばれ、今も美しい松林の残る浜寺公園の隣に、2016年6月にオープンした私立美術館。横山大観、竹内栖鳳、上村松園など文化勲章を受章した作家の作品を含め、近代日本画を中心に約250点を所蔵しているという。

泉州といわれるこの辺りには、芸術作品を鑑賞



小林美術館正面

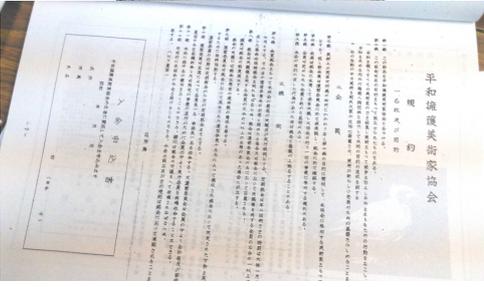
するには、大阪辺りまで足を延ばさないとなかなか機会にめぐまれないが、こんなところにこんなお宝が！よくも集められていたものと、大発見です。階下には喫茶店もあり、ゆつくり余韻も楽しめる隠れ家のような小さな美術館です。（中村記）  
大阪府高石市羽衣2丁目2番3号 電話072(262)2600 ◆入館料 大人1000円（着物の来場者は2割引き）  
◆交通アクセス 南海本線「羽衣」駅JR「東羽衣」駅より北西へ徒歩約5分。阪堺電車「浜寺駅前」駅より南西へ徒歩約8分。

意義を持った公募展として発展していることは喜ばしいことです。

平美新聞27号3頁「はじめの沖縄」の記事は瀬藤みや乃さんです。間違いを訂正しお詫言致します。



右記のよびかけ・新聞は関西平和美術展50年のあゆみから。



**第68回 関西平和美術展**  
2019年7月30日  
～8月4日  
大阪市立美術館  
搬入 7月28日  
搬出 8月5日

ロートルの意地を示し

浅野義浩 絵画

何か抱負を言われてもこの年になると淡い期待を抱く習性も失ってしまいました。エライ人ほど平気で嘘をつき大きな顔をしているのにワンザリ。日本社会は恥の文化だそうですがほんまかいなと思います。超高齢化社会の到来と言われて久しいですが、「パブルブーム」では右往左往して今度は「アンチエイジングブーム」で右往左往しなければならぬのでワンザリ。今年は戦後市民社会の命運が決まる大事な年、ロートルの意地を示してがんばりたい。当分死ぬません。

描く生活を真ん中で

伊藤美恵子 絵画

新しい年になった。毎年、今年こそは、ちゃんと描く生活をしようと思うけれども、気がつけば年末。実現できなかっためげがない。雑用が多すぎなのか？気が多いのか？体力がないのか？それでも、新年やっばり今年こそは描く生活を真ん中にこきりめげに思っている自分がいる。開発真っ最

中の岸部駅周辺、ただたかに生きる虫や草花のスケッチをためて作品を作ろう。どこかへ旅に出て、新鮮な空気を吸いたい。

心の眼を養いたい

中田 進 絵画

原作吉野源三郎「若たちは「生きるか」(漫画)・羽賀翔一」が270万部。2018年のベストセラーに。その一節に「水は酸素と水素からできていることを知っている。教室で実験

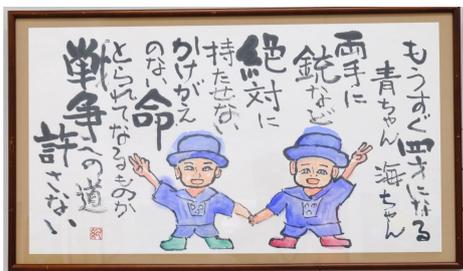
を見ながらははあと頷くことができる。しかし冷たい水の味がどんなものかは飲んでみない限りわからない。絵や彫刻や音楽の面白さは心の眼、心の耳が開かなくては。その心の眼、心の耳を開けるということは、実際に優れた作品に接し、しみじみと心を打たれて、はじめてそうなるのだ。」とある。今年の抱負は心の眼を養いたい。

# 今年の抱負

丁寧に暮らしたい  
松下心み代 書



明日があるようにでないような花の70代を今年こそ丁寧に暮らしたいなあ。雑多な日々横着している書、今一度背筋を伸ばして向き合い、自分自身とも向き合いその先を期待もしたい。1日7千歩目指して健康づくりに散歩を続けよう。



絵手紙 杉尾紀子  
「青ちゃん海ちゃん」

## 平美展出品者の出版案内



玉井 質写真集『私景 大阪城マントラ』

私は単写真を中心に撮っていましたが、組写真にするこ

日本機関紙出版センター刊2500円

前田 尋『きょう絵散歩』

日本の心なまこぎを描く50景

2005年8月号から描いている「川柳塔」



本のしまじな。原画はサム・ホール大のもので、40年近く、あちこちスフツシしたものの中から選んでぎり絵にしたものです。

(前田 尋記)

カラー47頁2160円(税込)

『游神』句集 川口ますみ

(題字川口昌葉)

他にも川口ますみ(書写昌葉)さん・中田 進さん(絵画)が本を出版されています。

『これではお先まっ暗!』

中田 進編



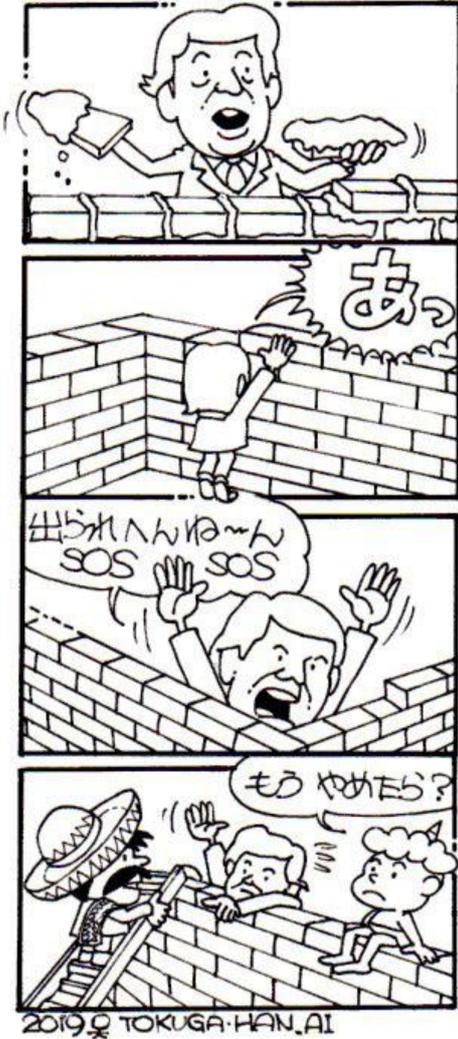
平美ホームページ  
担当者日誌 ⑩

30年ほど前にベーターヴェンの「交響曲第九番」をフェスティバルホールで聴いたことがあります。そのときの合唱団の8割が女性で、通常の「第九」より華やいだステージでした。ベーターヴェンも予期せぬ構成だったと思います。第4楽章で合唱団が立ち上がり、やがて「あらゆる生き物は、自然の乳房から喜びを飲む」と歌い始める。生きるすべてのものの友愛を鼓舞する「第九」には圧倒的な女性の声が入ると感じました。暴力による解決と武力を放棄した憲法「第九」条。二つの「第九」、共にその意味と真価を大切にしなければならぬ世界の宝だと思ふ。

ホームページが平美展出品者の交流の場として、個展や催しの紹介や皆様の日頃の声などのご投稿をお待ちしています。(後瀬記)



# 壁の見える国



11/4川口教会付近で合評中  
(参加者15名)



11月4日 都会の中の歴史を刻む  
レンガ造りの川口教会へ  
スケッチ散策

## 秋のスケッチ会



12/9総会で紙芝居紹介 (大阪国労会館)

## 平和の壁に花一輪を： 平美展出品者とともに平和を 守る活動に取り組みます

### 関西美術家平和会議総会

2019年度の総会を昨年の12月9日に会員の半数近い出席で、活動方針などを採択しました。平和憲法の改悪が策動され、ないが

しろにされようとしている今、平和を守る活動と呼びかけ、引き続き「安倍9条改憲NO! 憲法を生かす全国統一署名」に取り組むことなどが確認されました。とりわけ美術をおとした平和運動や会が主催する関西平和美術展・写生会・講演会などをいっそう充実させるために、平美展出品者とともに力を尽くし、関西美術家平和会議を紹介することなども申し合わせしました。「入会のしおり」請求やご入会のお問い合わせ先電話090(3279)0623

### ◆新入会員紹介

吉田 朋子 絵画他

私は1946年12月8日(真珠湾攻撃の日) 広島の「呉」で生まれた。現在は地元の晴美台九条の会の世話人を引き受け、元出版社の仲間と世直しの活動をしている。

「平美展」の存在は知ってはいたものの、まさか自分が出展できることは…。元同僚の宮脇さんや中田先生のお薦めで、下手を承知で厚かましくも出展させて戴き、

### 11月3日 おおさか 総がかり集会



書で参加アピール

その上、会員にもなった。上田の「無言館」や鹿児島特攻基地「知覧」を訪れるにつけ「戦争は絶対にイヤ!」と心底思える。

幼い頃から文章を書いたり絵を描いたり洋裁やお料理などが大好きなのは母親。今年の平美展には「あつと驚く作品を!」と意気込んではいいるが、はてさてどうなることやら。高校の美術部のOBや絵本の仲間にも入会を誘ってみたいものである。

### 扇町公園で開かれた「11・3おおさか総がかり集会」

関西美術家平和会議の夕べストーリーを持って参加、15人ほどの美術家が集まりました。この集会はパレードがなかったので終了後、木の会事務所までテープストリーを掲げて歩きました。

(山田泰子)

### 編集後記

久しぶりに栃尾さんが元気の姿でリハビリを兼ねて出席。色々とお話をお聞きして、記事提案に結びつき、新部員は新風を吹き込み、講演会報告は苦勞が報われて無事記事になりました。寄稿も多くの方から協力頂き、28号を発行することが出来ました。(松下記)